

平成30年産 大豆エンレイ栽培こよみ

アルプス農業協同組合
アルプス農協管内農業技術者協議会

【目標】収量：200kg/10a以上 品質：大粒比率の向上 「とやまGAP」の実施及び生産履歴記帳100%

月別	4月	5月	6月		7月			8月			9月			10月		11月		
旬別		下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中		
主な作業	播種		出芽・苗立			生育期			開花始め	着莢始め	莢伸長期			子実肥大期	黄葉期	落葉・成熟期		次年度作付圃場の準備
	基幹排水	耕起・整地 播種 除草剤散布	培土 1回目培土 播種20~25日後 (本葉2~3葉期)			2回目培土 播種30~35日後 (本葉4~5葉期)			ウコンノメイガ 防除(随時)	基本防除(1回目)	基本防除(2回目)			雑草の抜き取り	収穫			
栽培のポイント	<p>①排水対策を徹底 ②石灰質資材・堆肥等の積極的施用 ③播種時期に応じた適正な栽植本数の確保 ④晴れ間を逃さず2回培土の実施 ⑤病害虫防除の徹底 ⑥開花後~9月上旬の水分不足時は畦間かん水 ⑦圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に刈取り開始</p>																	
	<p>畦間かん水 開花期以降晴天が続いたら実施</p>																	

① 早期排水対策

①水口はしっかり止める
②額縁排水溝は早めに設置する
③排水口は深く掘り下げる
④サブソイラなどによる心土破碎
⑤播種直後に基幹排水溝を設置
⑥排水溝は確実に連結

排水対策の効果

- ・ 砕土率が上がり発芽・苗立ちが良くなる
- ・ 除草剤の効果が向上
- ・ 根量が増え、根粒菌も増える
- ・ 病害(茎疫病、黒根腐病)の発生抑制

※播種後18日目の生育状況



② 土づくりと施肥

- 大豆栽培に適するpH6.0~6.5を目標に必ず石灰質資材を施用する。
- 地力の低下を補うため、発酵鶏ふんを施用する。

10a当たり施肥量		
資材名等	施肥量	
粒状貝化石	150~200kg	
発酵鶏ふん	100~200kg	
BB084 (N:P:K = 10:18:24)	普通田	20kg
	砂壤土、低地力田	30kg
	麦跡	上記 + 硫酸10kg

③ 種子消毒 (病害虫防除の徹底)

対象病害虫	使用薬剤	処理方法
フタスジヒメハムシ アブラムシ類 タネバエ ネキリムシ類 茎疫病 黒根腐病 紫斑病	クーラーMAXX	塗沫処理 乾燥種子 1kg当たり 原液8ml

フタスジヒメハムシ 茎疫病 黒根腐病

④ 適正な播種作業で、苗立本数を確保

一連の作業は圃場が乾いた状態で、好天日に一気にやる。

※作業手順(施肥同時播種の場合)
耕起 ▶ 砕土・整地 ▶ 播種 ▶ 作溝

◎適正栽植本数の確保
目皿とスプロケットの組合せを確認し、適正播種量を入れる。

播種直後に基幹排水溝と額縁排水溝をつなぎ、排水を促進!

【播種量の目安】条間80cm エンレイ大粒種子(百粒重31.6gの場合)

目皿	播種時期	播種量目安(kg/10a)	目標栽植本数(本/10a)	スプロケット	
				目皿側	車輪側
B-2	5月下旬~6月上旬	4.9~5.6	14,000~16,000	10	14
	6月中旬~(麦跡等)	5.6~6.3	16,000~18,000	9	14
B-22	6月上旬~6月中旬	6.3	18,000	13	11

※B-22使用の場合は、圃場条件により播種量が増加します。

⑤ 雑草防除(除草剤散布)

散布時期	対象雑草	薬剤名	10a当たり散布量
播種後発芽前	一年生雑草	サターンバアロ粒剤	4~6kg
		サターンバアロ乳剤	600~800ml (水100ℓで希釈)
播種後発芽前	一年生雑草 (ツルクサ科、カヤツリグサ科、キク科・アブラナ科を除く)	トレファノサイド粒剤2.5	4~6kg
		トレファノサイド乳剤	200~300ml (水100ℓで希釈)
	一年生雑草	ラクサー乳剤	400~600ml (水100ℓで希釈)
		プロールプラス乳剤	400~600ml (水100ℓで希釈)
雑草生育期 (イネ科雑草の3~10葉期 (収穫30日前まで))	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	ポルトフロアブル	200~300ml (水100ℓで希釈)
大豆2葉期~開花前 (収穫45日前まで)	一年生雑草 (イネ科を除く)	大豆バサグラン液剤	100~150ml (水100ℓで希釈)
大豆5葉期以降雑草生育期 (畦間・株間処理) (収穫28日前まで)	一年生雑草	バスタ液剤	300~500ml (水100~150ℓで希釈)
雑草生育期 (畦間処理) (収穫28日前まで)	一年生雑草	ザクサ液剤	300~500ml (水100~150ℓで希釈)

※農薬使用基準を守りましょう。

帰化雑草の防除徹底

圃場周辺での早期発見に努め、開花・結実前に除去しましょう。

マルバルコウ マメアサガオ イヌホオズキ ホソアゲイトウ

⑥ 的確な培土

晴れ間を逃さず確実に2回の培土を行い、根域を拡大し、湿害を回避する。

~培土は株元に土をしっかりとかけましょう~

2回目：播種30~35日後
(本葉4~5葉期)
初生葉が隠れる程度

1回目：播種20~25日後
(本葉2~3葉期)
子葉が隠れる程度

良い培土 悪い培土

⑦ 畦間かん水

- ・開花期から9月上旬は、土壌の乾き具合に応じて適時かん水する。
- ・3日間以上晴天が続き、土が乾いたらかん水する。
- ・圃場全体に水が行き届いたら水口を止め、速やかに排水する。

開花期 畦間かん水

⑧ 病害虫防除

防除時期	対象病害虫	薬剤名	10a当たり散布量
基本防除	8月上旬	紫斑病	3kg/10a
		カメムシ類	
	8月下旬	紫斑病	4kg/10a
		カメムシ類	
随時防除	8月上旬	紫斑病	3000倍 2500倍 } 150ℓ
		カメムシ類	
	8月下旬	紫斑病	1000倍 150ℓ
		カメムシ類	
7月下旬~ 8月上旬	ウコンノメイガ	サイアノックス粉剤	4kg/10a
	8月下旬~ 9月中旬	トレボン粉剤DL	4kg/10a
		トレボン乳剤	1000倍 150ℓ
		プレバソフロアブル5	4000倍 150ℓ

※農薬使用基準を守りましょう。

⑨ 収穫作業

圃場のほとんどの莢が褐色になった頃を目安に収穫開始

莢色： 緑 → 黄 → 褐色

◎刈取り適期の目安

- ◎青立ち株や大きな雑草は事前に抜き取っておく。
- ◎露がなくなってから刈取る。(午前10時~午後4時まで)
- ◎刈取り高さは地際から10cm以上とし、土を掻き込まない。
- ◎汚損粒は絶対に出さない。(土や草汁が主な原因!)

⑩ 次年度大豆作付圃場の準備

- ・額縁排水溝の設置や心土破碎を行う。
- ・緑肥作物の作付により地力増進を図る。
- ・連作を避け、団地化を進める。

サブソイラによる心土破碎 深く掘り下げた額縁排水溝

大豆の乾燥・調製施設を利用しましょう。 立山大豆共同乾燥施設 463-6048 滑川大豆共同乾燥施設 471-2403
※乾燥施設を利用される場合は、計画的な受入れのため、事前にお問合わせ下さい。

※安全安心な大豆を生産・販売するために、『生産記録簿』は全て記入して、各営農センターへ提出して下さい。